清元 保名

明キ　風音

〈恋よ恋　われ中空になすな恋

〈恋風が来ては袂にかいもつれ　思う中をば吹き分くる
〈花に嵐の狂いてし　心そぞろにいづくとも　道行く人に言問えど
〈岩せく水とわが胸と　くだけて落つる涙には

〈かたしく袖の片思ひ

〈ヒィー　ト、カケリ

花道七三オコツクト、乞合止メ

〈姿もいつか乱れ髪　誰が取り上げて言う事も
〈菜種の畑に狂う蝶　ト、合方ヨリ

オルゴール
ショー

〈つばさ交わして羨まし　野辺の陽炎はる草を
〈素襖袴に踏みしだき　(ト)

スグ
〈狂ひ 狂ひて エエ
テン、テン、、ーーーーー
●●●●○○
ト、カケリ 中ヨリ　地　高刻 乞合
刻 ヌキ 結乞合
〈来たりける

「ンーなんじゃ 恋人がそこへ居た… ンーどれどれ…
エエーまた嘘言うか…　わっけもない事 言うわヤイ」

〈あれ あれを今宮の 来山翁が筆ずさみ 土人形の色むすめ
〈高嶺の花や折ることも 泣いた顔せず腹立てず 恪気もせねば大人しう
〈あらうつつなの 妹背中　主は忘れてござんせう
〈しかも去年のさくら時 植えて初日の初会から 逢うての後は一日も
〈便り聞かねば気もすまず うつらうつらと夜を明かし
〈昼寝ぬほどに思いつめ たまに逢う夜の嬉しさに
〈酒ごと止めて語る夜は いつよりも つい明けやすく
〈去のう去なさぬ口説さへ 月夜鴉に騙されて いっそ流して居続けは
〈日の出るまでも　それなりに
〈寝ようとすれど寝入られねば
〈寝ぬを恨みの旅の空

ト、合方アッテ　一調

〈夜さの泊まりはどこが泊まりぞ　草を敷き寝の肘枕
〈肘枕　一人明かすぞ悲しけれ悲しけれ
〈葉越しの葉越しの幕の内　昔恋しき俤や移り香や

一調　(ト)

〈その俤に露ばかり
〈似た人あらば教えてと　振りの小袖を身に添えて
〈狂ひ乱れ エエて
チン、チン、チンチンチン
●●●●○○
ト、小鼓一調ニテ カケリ 中ヨリ
刻 ヌキ 結乞合

〈伏し沈む

空笛ニテ　幕

清元 保名　小鼓一調

「ら」は板につくまで
延ばしていなくてはいけない

〈寝ぬを恨みの旅のそオらァ〜

「そ」で舞台に出る

(二上り)
トン、トン、トン　チ、チン　チ、チン　(ハ)　チ、チチ　ツチテンツ、テン

〈よ　さの　とまりは　どこが　とま　り　ぞ
チツテンツン シャン　トン、トン、テン、テン ツ、テツ ドッチンツン ツチチテン ツトン トツテンツ、
●　／　、　、　／　、　、　／　、　、　／　、　、
○　○　○○○○○ タ○○ ○○○ ○ ○○ ○○ タ○タ○

〈くさを　しきねの　ひじ　まく　ら
トン チツチンチンチャン　チリリン、、チンチン、チチンチチトチンチツン、ルン、ツチ チリ
タタ ○○ タ○○ ○○○○○ ○○ ○○ ○ ハ●ハ○ ○○○○

〈ひじ　ン ま く　ら
ツンチツテンツンテンチンレンチンツンテンツテンチン、ツンテン（ヨイ）〔下、トン、、、、〕
、、、、、、、、、、、、、、、、、、、、、、、、
○タ○○ ○○○○ ○ タ ○○ タ○○ ○○○○○○○

〈ひとり あかすぞ　かな し け れ　か
テン、ツ、テツドンチンツンツチチテンツトン トツテン ツ、トン チン、チチンチツン、
ヤァ○ ハ●ハ○○○ ○○○○ ○○○○ ○○○○ タ○○

な　し　け　れ
ツチチリツン（ハ）テンテンツツンテン（フッヤ）ツン、ツン、ドツツルツン、チチチリチンチリツン
ヤァ ス タ ○スタ○○ タタスタスタ

ドツツルツン、　チンチンチレツテ　チンチリチレテツトン、（フヨイ）
○○○○○ ○○スタ○ タ○ タタ ○○○

〈葉ごしの　葉　ごし　の　まく　の
ト、トン、、、、（フヤ）トン、　トン、　テン　テン　ツ　、テツ ドッチンツンツ チチテンツトン
ハヲ　○●● ○●●○○タ○タ○タタ ○○○○○ ○○○○タ○○

うち　むかし　こいしき　おもか
トツテン ツ、トン チツチンチンチャン　チリリン、チリリンチンチーンチチン チチトチン チツン
タ○タ○ タタ ○○ タ○○　タタタ ○○○○ ○ ○ ○○○○ タ○○

げ　や　う　つ　り　香　や
ルン、　ツチチリツン チツテンツンテンチンレンチンツンテツテン
○○○○○ タ○○ ○○○○ ○ ○○○○ タ○●ハヲ